

第1章 調査概要

第1節 調査目的

長浜市余呉町菅並^{すがなみ}（以下、菅並集落）は、いわゆる「余呉型」と呼ばれる茅葺民家（以下、余呉型民家）がまとまって残り、全国的に見ても貴重である（写真1-1-1）。この余呉型民家とは、滋賀県内の北東部、米原市から福井県や岐阜県の県境にかけて分布する民家の形式の1つであり、①^{ひろ ま がたさん まどり}広間型三間取りの広間部分（土間際の広い室）を土座とする、②土間・土座に十字に組んだ梁を架け、その内部には柱を立てないといった特徴を有する〔奈良国立文化財研究所1998〕。また、菅並集落では、主屋平面は主に広間型三間取り、屋根は茅葺、入母屋造、妻入りとし、扱首構造とするのが多い。これは、重要文化財旧宮地家住宅（写真1-1-2）に代表されるように、余呉型民家の特徴をよく表している。なお、土座を持つ民家は寒冷地に多くみられたが、その名残を残すものは全国的にも少なくなっており、貴重な存在といえよう。また、菅並集落の余呉型民家が建つ敷地は、土蔵や隠居屋などの付属屋や田畑などで構成されており、菅並集落は、旧余呉町内でも伝統的な景観をよく残している。

このように、貴重な建造物と伝統的な景観を伝える菅並集落だが、集落が山間部に位置していることもあり、近年、集落を離れる人や少子高齢化が進み、集落自体の存続が危機的な状況であり、空き家となった民家の解体や放置が進んでいる状況である。

そのため、菅並集落の価値を再認識し、今後、それらを活用したまちづくりを行うことで、将来的な集落の維持を行うことが必要であると考え、長浜市は、文化庁の補助金を得て、令和2年度から4年度にかけて、菅並集落の民家や集落の歴史・民俗・環境を把握するため、伝統的建造物群保存対策調査を実施した。



写真 1-1-1 菅並集落（北側から撮影）



写真 1-1-2 余呉型民家（国指定重要文化財
旧宮地家住宅）

第2節 調査方法

第1節の調査目的に沿って、調査項目ごとに下記の方法により調査を実施した。

伝統的建造物群の調査を行うなかで、地域の歴史的背景などを知る必要があったが、菅並集落を含む丹生谷地域の歴史について記した資料はわずかであった。そのため、建物とそれを取りまく自然環境、人びとの生活の歴史を知るために（1）集落調査のほかに（2）歴史調査や（3）民俗調査などを実施した。本報告書がこの地域における近年の本格的な歴史調査となることから歴史についても多く記述している。

（1）集落調査

・実測調査

保存物件候補の建造物を実測調査し、調査対象建造物の特徴を記録し、把握する。

また、余呉型民家をはじめとする主屋の時代的变化についても考察を行う。

・集落調査

集落内にある全建物（社寺建築は除く）の主要データ（種別・屋根・入口など）を作成し、集落景観を構成する景観構成要素を抽出し、その分布を把握する。また、昭和26年（1951）の家屋台帳のデータをもとに、当時の集落復原や主屋からみた建物種別ごとの配置の傾向を明らかにする。その他、ドローンによる空中写真撮影（春期・夏期・秋期・冬期）を行い、集落景観の記録と把握に努める。

・構造・防災調査

主に、主屋を対象として構造・防災に関する調査を行い、保存物件候補を保存・継承していくための方策を考える。

（2）歴史調査

菅並集落の古文書（主に、集落景観や建物に関するもの）の目録の作成および翻刻する。

（3）民俗調査

菅並集落の生活・習俗・風俗等の聞き取り調査を行い、建造物と菅並集落の環境等が地域的な特色をあらわしていることを把握する。

（4）伝統的建造物群景観保存構想案

上記（1）～（3）の調査結果に基づき、総合的な判断を加え、集落の固有性を具体的に即して把握し、これを保存育成するための保存計画の基本方針と枠組を提案するものである。

（5）未調査建造物

今後の課題とし、調査可能な建造物の精査を行う。

第3節 調査組織

菅並集落に所在する余呉型民家などの建造物や集落について総合的に調査・整理を行うため、菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会を設置した（写真1-3-1）。

また、実際の調査については、集落調査：滋賀県立大学、歴史・民俗調査：滋賀県立大学＋長浜市という体制で、調査に取り組んだ（写真1-3-2、写真1-3-3、写真1-3-4）。



写真 1-3-1
菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会

菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会（令和2年度から4年度）

- 座 長 石川 慎治（滋賀県立大学 人間文化学部 教授）
- 副座長 前川 和彦（余呉地域づくり協議会 理事 産業観光部長）
- 委 員 濱崎 一志（彦根景観フォーラム理事長、元 滋賀県立大学 人間文化学部 教授）
- 委 員 高田 豊文（滋賀県立大学 環境科学部 教授）
- 委 員 高屋麻里子（滋賀県立大学 環境科学部 講師）
- 委 員 市川 秀之（滋賀県立大学 人間文化学部 教授）
- 委 員 東 幸代（滋賀県立大学 人間文化学部 教授）
- 委 員 嵐 辰夫（菅並自治会）
- 委 員 杉山 靖（菅並自治会）
- 委 員 竹谷 翼（菅並自治会）
- 委 員 前田 一雄（菅並自治会）
- 委 員 是洞 尚武（余呉地域づくり協議会 会長）
- 委 員 山本 茂樹（株式会社ロハス長浜 統括マネージャー）
- オブザーバー 文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門
 - 大石 崇史（文化財調査官）令和2・3年度
 - 梅津 章子（主任文化財調査官）令和4年度
- オブザーバー 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
 - 澤本 尚人（課長）令和2・3年度
 - 村田 昌弥（課長）令和4年度
 - 菅原 和之（課長補佐）令和2～4年度
 - 坪田 叡伴（技師）令和2年度
 - 佐々木悠貴（技師）令和3・4年度
- 事務局 長浜市市民協働部歴史遺産課

調査協力者

<令和2年度>

- ・滋賀県立大学大学院 環境科学研究科
幸永幹真、北岡彩那、酒井陽子
- ・滋賀県立大学 環境科学部
大原千乃、城野のどか、竹本真子、
多田裕亮、菅沼健祐、寺本圭吾、
遠田真菜、野瀬晃平、山崎脩平
- ・滋賀県立大学 人間文化学部
鈴村建治、松浦拓来、山本富久美、
北村航希、下村莉央、梅本洋帆、
馬淵心之介、日比野李歩、野澤瑞起、
浦田菜々子
- ・横山琢哉



写真 1-3-2 調査風景（集落調査）

<令和3年度>

- ・滋賀県立大学大学院 環境科学研究科
酒井陽子
- ・滋賀県立大学 環境科学部
椎葉真結、山崎脩平、高垣睦、竺悟侑哉、
寺田由樹、中本鮎、山梨由貴
- ・滋賀県立大学 人間文化学部
北村航希、下村莉央、筒井史弥、
能勢真丞、長堂陸、海野晴輝
- ・ゴリの写真館 草野保徳



写真 1-3-3 調査風景（歴史調査）

<令和4年度>

- ・滋賀県立大学大学院 環境科学研究科
椎葉真結
- ・滋賀県立大学 環境科学部
高垣睦、寺田由樹、中本鮎
- ・滋賀県立大学 人間文化学部
能勢真丞、川村美優、那谷桃香、廣瀬匠、
梅本吾大、瀧日美心、田尻いちか
- ・ゴリの写真館 草野保徳



写真 1-3-4 調査風景（民俗調査）

第4節 調査経過

昭和55年(1980)に関西圏の人口増加により、水不足に悩む琵琶湖沿岸の新規利水と高時川・姉川流域の洪水調整を万全にするため、丹生ダム建設が計画された。この丹生ダム建設の影響で、菅並集落より北に位置していた田戸・小原・鷺見・奥川並・尾羽梨・針川が水没してしまう計画であったため、これら6つの集落を含む丹生谷の文化が忘れ去られてしまうことを防ぐため、民俗学的な調査を実施することとした。その後の丹生ダム建設中止により、菅並集落を含む丹生谷の地域づくりを模索することとなった。その後、以前から評判となっていた余呉型民家を中心とする集落景観を地域づくりの中心に据えた方針に移行し、今回の伝統的建造物群保存対策調査につながる。以下、この地域に関連した主要な出来事について記す。



図1-4-1 丹生谷の範囲（赤枠内）

- ・昭和48年(1973) 『高時川源流地域学術調査報告書』
- ・平成3年(1991) 『高時川ダム建設地域 民俗文化財調査報告書』(写真1-4-1)
- ・平成26年(2014) 『余呉型民家の活用方策調査報告書』
- ・令和元年(2019) 8月25日 丹生谷文化財フェスタ 開催(写真1-4-2)
- ・令和2年(2020) 3月 長浜市歴史文化基本構想策定
(歴史文化保存活用区域 エリア⑤ 菅並集落と丹生谷の山村生活)
- ・令和2年(2020) 7月～令和3年(2021) 3月 伝統的建造物群保存対策調査(令和2年度)
- ・令和2年(2020) 9月14日 第1回 菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会
- ・令和3年(2021) 2月15日 第2回 菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会
- ・令和3年(2021) 3月10日 第1回 調査成果報告会(地元説明会)
- ・令和3年(2021) 5月～令和4年(2022) 3月 伝統的建造物群保存対策調査(令和3年度)
- ・令和3年(2021) 11月22日 第3回 菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会、
文化庁調査官 現地査察
- ・令和3年(2021) 12月 長浜市文化財保存活用地域計画認定
(歴史文化保存活用区域 エリア⑤ 菅並集落と丹生谷の山村生活)
- ・令和4年(2022) 2月 第4回 菅並集落伝統的建造物群保存対策調査委員会(書面開催)
- ・令和4年(2022) 5月29日 第2回 調査成果報告会(地元説明会)(写真1-4-3)
- ・令和4年(2022) 4月～令和5年(2023) 3月 伝統的建造物群保存対策調査(令和4年度)
- ・令和4年(2022) 8月22日 文化庁調査官 現地査察(写真1-4-4)

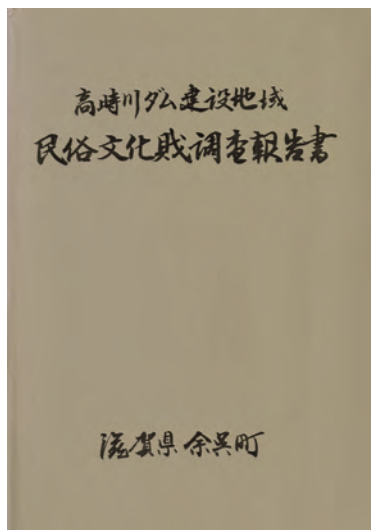


写真 1-4-1 『高時川ダム建設地域民俗文化財調査報告書』



写真 1-4-2 丹生谷文化財フェスタ



写真 1-4-3 第2回 調査成果報告会（地元説明会）



写真 1-4-4 文化庁査察